

令和4年6月定例会会議録

(令和4年6月20日)

八代市教育委員会

八代市教育委員会 6 月定例会会議録

- 【開催日】 令和4年6月20日（月）
- 【場所】 八代市役所本庁4階 403会議室
- 【出席者】 北岡 博 教育長
渡邊 裕一 教育委員
松永 松喜 教育委員
奥村 留美子 教育委員
早田 蛍 教育委員
- 【出席職員】 中 勇 二 教育部長
橋口 幸雄 教育部総括審議員兼次長
松川 由美 教育部次長
田中 智樹 教育部理事兼教育政策課長
田北 佳一郎 学校教育課長
稲本 健一 教育施設課長
高崎 博文 生涯学習課長
櫻井 幸枝 教育サポートセンター所長
松村 哲治 教育部理事兼博物館未来の森ミュージアム副館長
長船 征洋 教育政策課長補佐
松本 豊 教育政策課長補佐兼学校管理係長
中松 大輔 教育政策課主幹兼学校給食係長
寺本 直史 学校教育課指導主事兼指導係長
林田 安夫 生涯学習課長補佐兼管理係長
宮尾 信 生涯学習課主幹兼生涯学習推進係長
坂本 大輔 教育サポートセンター副所長
- 【事務局】 萩本 誠子 教育政策課教育政策係長
浦本 美代子 教育政策課参事

（審議事項）

<報告案件>

- ① 報告第11号 「八代市立学校における不登校児童生徒の『指導要録上の出席扱い』に係るガイドライン」の策定について
- ② 報告第12号 第2期八代市教育振興基本計画の進行管理について

1. 開会 (午後2時00分 開会)

2. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告

3. 議題

〈報告第11号〉 「八代市立学校における不登校児童生徒の『指導要録上の出席扱い』に係るガイドライン」の策定について

田北学校教育課長

資料により説明

不登校児童生徒が、学校外の民間施設等での学習活動、自宅等でICT等を活用した学習活動を行った場合に、「指導要録上の出席扱い」とするかを判断するための目安を示すガイドラインを策定した。

奥村教育委員

対象の児童生徒は、現在何人いるのか。

寺本学校教育課指導
主事兼指導係長

現在、学校と協議をしたうえで登校を認めているのは、中学生1人である。

渡邊教育委員

学校外の民間施設に通っている生徒は何人いるのか。また、八代市内の生徒が利用している施設数は把握しているか。

寺本学校教育課指導
主事兼指導係長

正確にどの施設を何人利用しているかについては、把握していない。申し出があり協議をし、教育委員会で施設を見学し、登校を認めているのが中学生1人である。

早田教育委員

具体的に民間施設等とはどういったところがあるのか。

寺本学校教育課指導
主事兼指導係長

フリースクールで県内数カ所ある。一番新しいところは、熊本学習支援センターであり、1人登校を認めている生徒はそこに通っている。6月中旬、近見校が開設され、大江校など数校開設されている。

早田教育委員

八代市内には対象の施設はないのか。

寺本学校教育課指導
主事兼指導係長

八代市内にはない。

早田教育委員

どういった要件を満たすと、対象の施設になるのか。また、

なり得そうな施設は八代市内にあるのか。

寺本学校教育課指導
主事兼指導係長 学習支援を行い、各学校に報告を行うことが目安となる。申し出のあった民間施設は、必ず学校及び教育委員会が見学、確認し、対象とするかの判断をしている。

奥村教育委員 出席の要件が子供たちの進路にも影響するため、今回の措置は、学校に行きにくくて悩んでいる子供や保護者にとって、大きな安心材料になるのではないかと思う。ただし、出席とみなす場合は、学校と教育委員会が協議をしなければならぬため、何をもって学習したとみなすかのチェック機能が大変になると感じた。

〈報告第 12 号〉 第 2 期八代市教育振興基本計画の進行管理について

田中教育部理事兼
教育政策課長 資料により説明
第 2 期八代市教育振興基本計画は、平成 30 年度から令和 3 年度の 4 年間の計画であり、今回は最終年度の取組状況についての報告となる。今回の進行管理では、基本方針及び主な施策ごとに令和 3 年度における取組状況と成果、課題や懸案事項等について記載し、点検、評価を行っている。

奥村教育委員 各課の取組について、全体を見渡すのが教育政策課の仕事だと思う。各課に対しての励ましや指摘を行うなど、全体を高めるような調整を行う取組をお願いしたい。

2 点お尋ねしたい。

C 評価となっている「適正で魅力ある運動部活動の充実」については、今年度中に今後どのような取組を行うのか。

「学校 ICT 環境の整備」について、A 評価となっているのは良かった。タブレットは子供たちにとって、鉛筆や消しゴムと同等の道具となるようにという主旨で導入されたと思うが、タブレットの充電を学校ですることが困難なため、家に持ち帰って充電している。そのため、社会や理科の教科書を学校に置いて帰るといった状況が見られ、残念に思う。タブレットの充電が学校でできないためにこのような状況になっているのであれば、充電設備を適正にしてほしい。

田北学校教育課長 「適正で魅力ある運動部活動の充実」について、中学校の運動部活動は、土・日から地域へ移行するというところで話が進んでいるが、具体的な内容が何も決まっていないため、準備に入

れない状況である。国からの通知では、大きく2つの流れがある。1つは、土・日の教員の負担軽減のために、地域の人材により土・日の指導に当たれるよう、人材を見つけるということ、もう1つは、少子化により一部の学校では、部活動の運営が厳しくなっており、部活動の数が削減されている状況であることから、部活動の運営が成り立たないような学校においても、子供たちのニーズに応えられる環境を整えてほしいということである。例えば、現在の合同部活動のような形で、いくつかの学校が集まって活動することも考えられるが、学校として運営できない場合は、夜間、地域の方々が行っている社会体育で、子供たちが希望する種目に参加できないだろうかと考える。そうすると、部活動とは少しかけ離れるが、アンケート調査を広く実施し、現在、部活動に入っていない子供たちも含めて、希望する種目を考えている子供たちがどのくらいいて、どのような種目を希望しているのかを把握したいと予定している。

子供たちのニーズに応えられる環境を整えてほしいという流れから、部活動が困難な場合は、地域の総合型スポーツや夜間の社会体育などで、子供たちが運動する機会を増やしてほしいという2つの大きな柱で国から通知が出ている状況である。

今後、スポーツ協会や各種競技団体等と情報交換をしながら、本市としてはどのような体制が適当であるかを検討していかなければならない。地域によって状況が異なるので、非常に難しい問題ではあるが、具体的な県からの通知が7月に発出される予定なので、それから動いていこうと考える。

奥村教育委員

評価がCだから悪いとは決して思わないが、困難な現実を踏まえて、いろいろな検討が行われている状況が分かった。

松本教育政策課長
補佐兼学校管理係長

タブレットの充電について、令和2年12月にタブレットを整備した際に、充電保管庫を各クラスに設置したが、ACアダプタの取り外しを前提として作られたものではなく、収納して充電をする充電保管庫を設置している。当初、タブレットの持ち帰りは週末だけであろうと想定し、家庭での使用が週末だけであれば、学校での充電で足りると考えていたが、コロナウイルス感染症がまん延し、持ち帰りが必要になってきた。持ち帰ると学校で充電が切れる子供が見られるようになり、充電保管庫から充電器を取り外さなければならなくなった。しかし、いったん取り外すと付けるのが容易ではなく、そのうちに学校での対策として、ACアダプタを家庭に持ち帰り充電をしてもらおうとなった次第である。熊本市においては、充電は家庭で行

うようになっており、充電保管庫を教室に設置していない。他の自治体においては、ACアダプタを学校用、家庭用の2セット購入した自治体もある。本市でもACアダプタを2セット購入するためにはどのくらいの予算が必要かを検討したが、約6千万円の費用がかかるため、購入には至らなかった。タブレットが古くてすぐ充電が切れてしまう機種については、別途モバイルバッテリーを購入、学校へ配付し、充電切れが起こらないように対応しているところである。

奥村教育委員

教育改革、授業改善、意識向上など今までソフト面の改善向上変革が言われてきたが、今はタブレットを主要な道具の一つとして位置づけようとしたとき、タブレットの管理が学校の授業にも家庭学習にも影響してくると感じている。この1、2年でベストな方法は定まらないと思うが、子供たちの学びの質が向上していくような、そのための道具となるように、私たちも同じ意識を持っていたいと思う。

松永教育委員

「適正で魅力ある運動部活動の充実」については、田北学校教育課長の説明を聞いて、国からの通知が出ていることを知り、少し安心した。今は、学校の部活動に入っている子供が少ないと感じるが、クラブチームに所属している子供もいる。なんらかの形で自分の好きなチームに所属しているので、いろいろな団体と協議して、八代市としての結論を出してもらいたい。

早田教育委員

オンラインに関連して、毎日タブレットを持ち帰るようになって、水筒をランドセルに入れると水漏れしたときにタブレットが壊れてしまうということで、水筒を肩にかけて行くようになった。我が子は小学生であるが、重い荷物を両手に抱えて歩いて学校へ行っているのを見ると、転んだときに大丈夫かと心配に思う。また、理科、社会の資料集を持ち帰らないので、家で見ることはできない状況である。タブレットを持ち帰るのであれば、デジタル教科書を導入して、タブレットで理科や社会の資料を見ることはできないだろうか。

寺本学校教育課指導
主事兼指導係長

児童生徒用のデジタル教科書は検証事業ということで、どの程度の資料が入っているのかは把握していない。教師用は各学校に導入してあるが、児童生徒用はすべての教科は入っていない。今後の検討が必要になると考える。

早田教育委員

防災教育について、マイタイムラインの周知が学校に行われたことは大きな一歩だと思う。学校からもマイタイムラインの質問が増えてきた。県もくまもとマイタイムラインを作っているが、どう作るのかという具体的な行動が定まっていない状況である。最近、保護者から問合せがあり、学校からマイタイムラインを持って帰ってきたが、どうやって作ればいいのか分からないという内容であった。マイタイムラインをどう作るかを先生方も学び、生徒に説明したうえで、家庭に持って帰るとより充実したものになるものではないか。マイタイムラインを作ることが重要ではなく、マイタイムラインを通して、何かあったときに命を守れる力を身に付けることが重要であり、それについて家庭と考えるということ今年度、推進できると良いのではないか。

田北学校教育課長

学校では様々な防災教育を行っており、学校ではマイタイムラインについて子供たちに説明したうえで、家庭に持ち帰っているところである。親子防災教室のような形で、マイタイムラインについて親子で考える時間が確保できると、保護者の方が戸惑うようなことはなかったのではないかと思うが、コロナウイルス感染症により、学校に保護者の方を集めることができない状況であった。今年度、全部の学校でマイタイムラインを完成させることになっており、昨年度完成させた学校については、見直しを行うこととしているので、校長園長会においても、マイタイムラインについて、可能であれば親子で考える時間を確保してほしいという啓発を行いたいと考える。

早田教育委員

6月23日、二見小学校において、授業参観でマイタイムラインを作成することになっているので、参考にしていただきたい。

奥村教育委員

タブレットに関して、友人との会話の中で気になった点があったので、紹介したい。タブレットについては、何があっても活用できるから便利だが、あまりにも重たいので、特に学期末などは持ち帰る荷物が多く、子供たちの負担になる。そのうち、キャリーバックで登下校する日が来るのではないかと危惧する。今後、タブレットも薄型になってくるだろうが、混沌としている現在において、何を基準にいろいろな物事を決めていくのかをしっかりと決めてほしい。また、言葉を調べるときは、以前は辞書で調べていたので、前後の関連ある言葉を目にすることで、日常的に学びが豊かになっていた。しかし、タブレット

で、その言葉だけを検索するような学びにおいては、学びにゆとりやふくらみがないのではないかと思う。数年前までは、教室に辞書が置いてある教室が多く見受けられたが、今はどうだろうか。現在は過渡期であると思うので、少しでも子供たちの学びが豊かになるような方向性づくりと、辞書をめくるという所作を大事にしてほしい。

渡邊教育委員

運動部活動について、先を見据えて、地域としての受け皿づくりを考え始めている校区もあると聞いている。一番の課題は、地域も保護者も情報がないことである。いつ、どのような動きになるのかが分からないという状況は不安であるので、国や県からの情報を地域にも発信できると、地域も早く対応ができるのではないかと思う。小学校の取組における反省を、中学校に活かすことができれば良いと思う。

コロナウイルス感染症による学級閉鎖のときのオンライン授業について、学校の方針によると思うが、全ての学校で行われている状況ではない。事務局としてはどのように考えているのか、また指導はしているのか確認したい。

田北学校教育課長

オンライン授業については、学校間の格差があるのが現実である。校長園長会においては、学級閉鎖の際にはオンライン学習ができるように、日頃からタブレットの持ち帰りをするようお願いをしている。また、オンライン授業もお願いをしている。しかし、健康観察等で決まった時間だけタブレットを使用し、学習については学習範囲を伝えるだけの学校もある。現在、タブレットの活用については、学校訪問などで、他の学校の状況を伝えながら、進んでいない学校については、緊張感を持って取組を行うようお願いをしている。できるだけ早く、全ての学校でオンライン授業ができるよう進めていきたいと考える。

北岡教育長

本年度から教育政策課にICT教育推進係を設置しているので、学校訪問、校長園長会において、お尋ねや困りごとがあれば支援ができることを説明している。ICT教育がさらに進んでいくことを願っている。

渡邊教育委員

生涯学習関係について、コロナウイルス感染症の影響で、多くの講座等を中止せざるを得ない状況でB評価となっているが、どのような指標で評価してあるのか。

中教育部長

33講座のうち8講座が中止となっているが、開催できなか

ったことで評価を下げるのではない。企画、募集などの準備は行ったが、外的要因があつて開催ができなかったので、企画、募集などの準備ができたのであれば、通常どおりできたものとして評価をしている。開催できなかったことで効果は得られていないので、本来の主旨からすると評価は下がるのだろうが、プラスの要因としては、当初計画していなかったスマートフォン講座などの新しい企画ができたことが挙げられる。

渡邊教育委員

開催できたかできなかったは施策の重要な側面であると思うが、博物館においては、満足度調査が行われている。開催できない講座があつたとしても、参加者の満足度が高くなる取組であれば、コロナウイルス感染症による開催中止にかかわらず、成果があつたと捉えて良いのではないかと考える。

中教育部長

アンケートなどにより、利用者の満足度を測るのが一番確実な事業に対する評価と考える。事業をより良くしていくために、利用者の満足度を分析することを広めていきたい。

奥村教育委員

運動部活動について、地域人材の活用、確保がとても大きな問題点になっていると思う。仕事があるために、指導できる人がいないという声を聞く。運動部活動の指導をすることは、地域の子供たちの活動を活性化するという一つの大きな仕事と捉え、安心して指導に関わることができるような仕組みを社会全体で考えていかないと、学校が人材確保の苦勞をする、指導に関わった人が無理をすることになるのではないか。企業も含め、地域人材として学校部活動に関わる配慮事項を考えてもらえないかと感じている。市内の子供たちが、学ぶことに関して幸せを実感できたかということが究極の目標であることを、学校、家庭、地域で共有できるとよいと思う。そうすると、評価の基準も変化するのではないか。

北岡教育長

前生涯学習課長である田中教育政策課長に尋ねたい。生涯学習課において行事や講座を行った後、参加者に対して満足度調査を行っているのか。

田中教育部理事兼
教育政策課長

必ず行事や講座等が終わった後に、アンケートを取っている。アンケート集計後の事業の評価、反省を踏まえ、次年度への見直し等を記録している。昨年度は、市民の方へ生涯学習についてのアンケート調査を行った。ホームページや防災メールで回答できるようにしており、回答率が高く、市民の方々のニ

ーズを確認することができた。このアンケート結果も参考にしながら、今回の評価がBとなっている。

中教育部長

今回の教育振興基本計画の進行管理において、評価の指標は、明確に数値等で表示したものではない。第3期の教育振興基本計画においては、指標を明確にするため、それぞれの基本方針ごとに指標を数値で表すようにしている。来年度からは、数値をもって評価の説明をすることとしている。

奥村教育委員

読書活動の推進について、7カ月児と保護者に絵本のプレゼントを行っているということであるが、7カ月児と保護者を対象にしているのは、どのような基準からなのか。

高崎生涯学習課長

7カ月検診の際に、読書に親しむきっかけづくりということで取組をしている。

早田教育委員

中学生の保護者から、「1学期の中間テストがないために、期末テストの範囲が広く負担である。以前は、中間テストで学力を付けたうえで期末テストに臨むことができていたため、学力に影響しているのではないかと思う」という声を聞いた。1学期の中間テストはどのような経緯で、いつからなくなったのか。

田北学校教育課長

各学校の中間、期末テストは、各学校で計画するものであり、教育委員会でテスト数を削減したものではないため、状況を把握していない。1学期の中間テストは、テスト範囲が狭くなることが期末テストに一本化された理由としている学校もある。各学校の判断となっている。

北岡教育長

中間テストをなくしたことは学校の判断であり、保護者の捉え方もさまざまだと思うが、メリット、デメリットを把握しているか。また、中間テストをなくしたことが学力の低下に直結するという明確な理由はあるか。

田北学校教育課長

働き方改革の観点からすると、テスト作成は労力があるので、中間テストをなくしたことのメリットと考えられる。また、中間テストをなくしたことで学力が低下すると考えるのであれば、おそらく学校は中間テストをなくすことはしないと考える。学力向上が基本的なねらいなので、働き方改革を優先して子供たちの学力をないがしろにするという発想はない。特に1

学期は中体連大会があるため、期末テストが前倒しになってしまい、中間テストの出題範囲が狭くなるということも影響していると考えられる。状況を把握したい。

早田教育委員 中間テストを行った場合の成果と課題について把握したい。

4. 連絡事項
- | | |
|------------|--|
| 教育政策課 | 第1回総合教育会議（7/11 13：30～）
学校給食関係職員研修会（7/21）
令和4年度教育に関する事務執行状況の点検評価に実施に伴う対象事業の選定について |
| 学校教育課 | 八代市中体連大会について（6/25～） |
| 教育施設課 | 大規模工事の契約について |
| 生涯学習課 | 八代地区人権啓発研究集会・現地研修会
アウトドアスクール（7/27～29 豊野少年自然の家）
子ども陶芸教室（8/4） |
| 教育サポートセンター | 研修会の開催状況について |
| 博物館 | 夏季特別展覧会（7/15～8/28）
臨時休館について |
| 事務局 | 7月定例会日程確認（7/20 14：00～） |

5. 会議録署名委員の指名 渡邊委員・早田委員

6. 閉会（午後3時36分 閉会）

令和 年 月 日

署名委員

記録者
